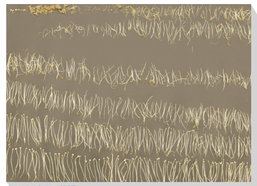
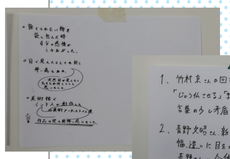
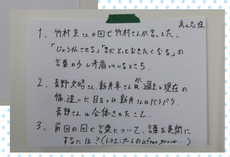

えのきだけの分解

第7回｜11月22日［日］
前半の振り返りとグループ分け

写真を見ながら前半にやったことを振り返り、どんなことが印象に残っているかをお互いに発表、その後、興味・関心の似ている人同士で3つのグループに分かれ、自分たちのグループのキーワードと、そのキーワードをどんな活動を通して深めていくかを話し合った。

印象に残ったことを書き出してみる





第8回→第10回
グループワークと発表

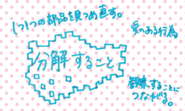
グループ A
メンバー：
木暮万葉｜福島祐希
松村彩奈｜和久井翔太
渡辺佳子

竹村京さんや青野文昭さんのワークショップから発想して、「なおす」こと（「縫う」「つなぎ合わせる」）に焦点をあてて活動をスタート。キーワードについて深めていくために、まずは逆の「分解」に取り組んでみることになった。「分解」をやってみる中で、似た言葉である「破壊」との違いはなにか考えたり、分解したものを「なおす」中で、「再現」と「再構築」という2つの言葉が浮かび上がったりと、活動をしながらキーワードが移り変わっていった。

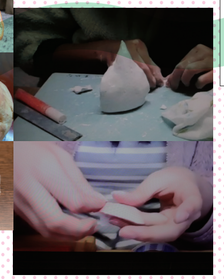
キーワード
なおす、分解、再現、再構築

12月13日［日］
はじめは各自が持ち寄った時計などの分解を試みたが、全体がくっついた構造になっていて、「分解」することができず「破壊」になってしまうという問題が発生。そんな中で、ひとりのメンバーによる「みかんの分解」の写真がきっかけとなり、野菜や果物を「分解」してみることに。美術館前のスーパーにみんなで買い出しに行き、野菜を選んだ。えのきや玉ねぎの一つ一つのパーツを取り出して並べてみることで、今までは食べ物としてしか見ていなかった野菜の形や構造に目を向けることにつながった。

みかんの分解　そらまめの分解



1月31日［日］
紙粘土や折り紙、新聞紙を使って、全員で玉ねぎの「再現／再構築」を行った。玉ねぎの皮が重なり合う構造やずっしりとした重さなど、一度「分解」の作業をはさんだことで見えてきた特徴を表せるように工夫した。その後、「再現」と「再構築」、「分解」と「破壊」という言葉の違いについて話し合った。



自宅での取り組み
分解したのと同じ野菜をそれぞれすりつぶしたり、包丁で切ったり、液体窒素を使ってみたり、色々な方法で「破壊」してみた。中には「放っておいたら腐ってしまった」というメンバーも。バリエーションに富んだ方法が試された。

2月11日［木・祝］
他のチームより1回多く集まって、成果発表会の準備を行った。自分たちの取り組みが一目で見て分かるように、写真や矢印を使いながら、「分解」「再現／再構築」「破壊」といったキーワードの関係性について図を作成した。

広瀬さんからのコメント
発表の中で使っていた「つなぎ合わせる」という言葉が、単に「つなぐ」ことで元通りにするだけでなく、「あわせる」ことで新しいものになる、という要素を含んでいて、とてもいいなと思いました。「光沢が出た」とか「色にこだわった」とか、実際に手を動かしてみる中で気づいたことや感じたことを共有してくれたのも印象的です。聞いていて、皆さんがつくったものを触ってみたいな、と思いました。ただ見るだけでなく、「自分の手でばらばらにしてみる、作ってみる」ことで、あらためて野菜という身近なものをじっくり「みつめなおす」ことにつながっているように感じます。

グループ B
メンバー：
高木咲空｜竹永壽一郎
本間愛深｜山下泉澄
山田埜生

広瀬浩二郎さんとの出会いから、「みる」というキーワードに興味を持って活動をスタート。目で見る以外の色々な「みる」方法について、頭で考えるだけでなく実際に体験をしていくために、みんなで共通のものを「みる」ことに決めた。風や星などの選択肢の中から水が選ばれ、「水をみる」というテーマにそれぞれが取り組むことになった。

キーワード
みる

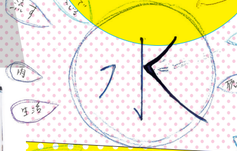
各自の取り組み
メンバーそれぞれが色々な感覚を使って「水をみる」ことを試してみた。

水を使った美術作品の紹介｜多摩川の観察｜お風呂場で実験
水を使ったインスタレーションを見に行く、多摩川の波紋や水たまりの水面を写真に撮る、お風呂のお湯に足を沈めて歪んだ像を眺めるなど、とにかく水に注意を傾けながら生活してみた。その中で、自分が一方的に見るのではなく、水が自分に対して色々なことを投げかけ、それを自分がキャッチする、という相互性があることに注目した。

海と川の違い
海と川を比較して、海の壮大な音と、川のチョロチョロした音、という音の違いに注目した。下の土や流れている水の種類など、置かれている状況、周りの風景や雰囲気なども、川と海とでは全く違うという気づきから、音の違いがそういう要因によってもたらされているのではないか、と推測した。

上：実験Aの様子｜下：実験Bの様子

水をテーマにした美術表現を探す
美術作品の中で「水」がどのように描かれているのかを調べてみた。葛飾北斎の《冨嶽三十六景 神奈川沖浪裏》の波や、ジョルジュ・スーラの《アニエールの水浴》の水面など、水を描いた作品を紹介しながら、色々な水の表現の面白さや見た時の驚きを報告した。



グラスハープの実験
形や厚みの違う2種類のコップを使って、グラスハープの実験を行った。縁が薄いコップを使うと音が出ることや、水の量を多くすると高い音が鳴ること、コップの縁をなぞった時に中の水が振動することを発見した。いつも飲み物やお風呂として触れていた水が、見方を変えると芸術作品や楽器としても捉えられることが分かった。

水の入ったグラスを通してみてみる ほか
水を通してものを見るとぼやけて見えることを、水の入ったグラスを使ってデモンストレーションした。そのほか、水面に水滴を垂らして波のような動きをつくること、滝や雨、川の流れの音を耳で聞くこと、海、お風呂、プールに入っているときに身体全体で感じることなど、透明で形のない水を「みる」色々な方法を紹介した。

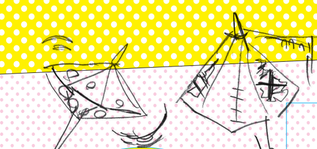
各自が自宅で取り組んだ内容を踏まえ、「水をみる」ための実験を考えた。水の温度を変えてみたり、水にものを浮かべたり、他の液体と比べてみたり…どんな条件だとうまくいくかをみんなで試しながら、2つの実験を完成させた。
実験A「水の流動性を見てみる」
冷たい水を入れたガラスの器に絵の具をたらし水中で変化する絵の具の様子を見てもらう
実験B「水の粘り具合を可視化する」
1円玉の上に少しずつ水をたらし盛り上がった様子を見てもらう

広瀬さんからのコメント
手触りや音、重さによって全身で水を体感したり、自分の身体と水の境目について考えたり、見たものを客観的に、あるいは見たときの気持ちを素直に言葉にしたりと、色々な切り口でこの難しいテーマに取り組んでいるのが印象的でした。言葉という点では、オノマトペのことなども考えてみると面白いかもしれません。2つの実験は、水の流動性や表面張力の「可視化」を通して、逆に「可視化できないもの」にも気づかせてくれるように思います。僕のワークショップの隠しテーマでもあった「見えない世界をみる」ことに迫る内容で、僕にとっても刺激になりました。

発表

グループディスカッション

グループ C
メンバー：
五十嵐久子｜宇佐美友悠
恩田まひろ｜高山志保
知識つぐみ｜米林慶晃



キーワード
個性、時間の経過

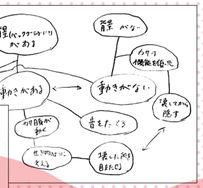
青野文昭さん、新井卓さん、竹村京さんという3人のアーティストとの出会いに触発されたメンバーが集まった。話しあう中で、3人の作品に使われている素材がどれも、過去に他の人に使われていたり、他の場所にあったり、過去の時間を背負っている、という発言がでた。また、青野さんの「素材の個性を活かしながらなおしている」というコメントや、竹村さんのワークショップで、それぞれの「なおしかた」に個性があらわれたことが印象的だったという意見もあり、2つのキーワードに集約された。

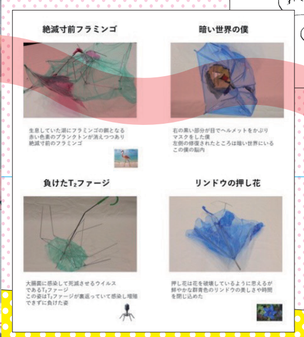
「壊して、なおした」作品を絵で表現

個性

12月13日［日］
「同じものをそれぞれが壊し、なおす」ワークショップを実施。素材にはビニール傘を使った。同じ傘からスタートしたが、思い思いの道具や材料を使って「壊して、なおす」ことで、最終的には一人一人全く違うものが完成した。

自宅での取り組み
傘を「壊して、なおした」体験や、他の人の制作を見て感じたこと・考えたことをまとめてみた。





時間の経過

自宅での取り組み
各自が身の回りのものの中から「時間の経過を感じるもの」を探し、写真を撮ってみた。

- 「鞄」「小さい頃の鞄と今の鞄。成長し、鞄が大きくなっている。」
- 「ひまわり」「季節の変化を感じるひまわりの写真」
- 「電子レンジのボタン」「1分」のボタンがボロボロになっていて、たくさん押されていることが分かる。
- 「サッカーボール」「中学の時に買って、4年くらい使っている。もともとは緑色だったけど、使っているうちに色が落ちた。」
- 「工事現場」「まだ骨組みが透けて空が見えたりしているけど、これから建っていくんだな、ということを想像させる」
- 「こみばこ」「玄関にたぶん15年くらい置いてある。上が緑色っぽくなっているところに、長年使っている感じが出ている。」
- 「氷」「氷が溶けて、崩れていくところに時間が表れている。真夏のこのくらいの暑さが出ていた。」
- 「夕暮れ」「夕暮れ時は、子どもに対して「そろそろ帰りましょう」の音楽が流れたり箱庭の歌詞にしてきたり。1日が1回終わる時間。」

1月31日［日］
各自が撮影してきた「時間の経過を感じるもの」の写真を見ながら、どんなタイプのものがあるかを分類した。「自然」と「人工」、「過去」と「未来」、「意識しやすいもの」と「意識しにくいもの」など、色々な軸が出てきた。

広瀬さんからのコメント
「個性」と「時間の経過」という2つのキーワードがあるけど、実はその二つはつながっているように思いました。例えば博物館の資料もそうですが、時間を経てものの性質が変わって壊れていくことも、そのものの個性とみなせるのかもしれません。傘を「なおす」ことについては、元通りにするのではなく、2つの「そうぞうりょく」（想像／創造）がはたらいているように感じました。また、時間という観点では、「個人の時間」「社会の時間」「世界の時間」などの対比を考えてみても面白いと思います。

番外編第1回・第2回
5月9日［日］30日［日］
記録誌をつくる

全てのプログラム終了後、有志で集まり、この記録誌の内容について考える2回の番外編を行った。1回目はプログラムについて振り返り、それぞれが印象に残ったことを共有しながら、記録誌のタイトルや大まかな構成を話し合った。2回目はデザイン事務所NDGグラフィックスの森士さん・高木さん・田中さんに、Zoomを使って、前の回に話し合ったことをプレゼンテーション。冊子のタイトルと表紙は、二つの案をもとにして決められた。